

特許協力条約

PCT

特許性に関する国際予備報告（特許協力条約第二章）

（法第 12 条、法施行規則第 56 条）
〔PCT36 条及びPCT規則 70〕

REC'D 09 FEB 2006

WIPO

PCT

出願人又は代理人 の書類記号 PCT-AB04050J	今後の手続きについては、様式PCT/IPEA/416を参照すること。	
国際出願番号 PCT/J P 2004/010824	国際出願日 (日.月.年) 29.07.2004	優先日 (日.月.年) 03.03.2004
国際特許分類 (IPC) Int.Cl. C12N15/09(2006.01), C08G69/48(2006.01)		
出願人 (氏名又は名称) 独立行政法人科学技術振興機構		

<p>1. この報告書は、PCT35条に基づきこの国際予備審査機関で作成された国際予備審査報告である。 法施行規則第 57 条 (PCT36 条) の規定に従い送付する。</p> <p>2. この国際予備審査報告は、この表紙を含めて全部で 5 ページからなる。</p> <p>3. この報告には次の附属物件も添付されている。</p> <p>a. <input type="checkbox"/> 附属書類は全部で ページである。</p> <p><input type="checkbox"/> 補正されて、この報告の基礎とされた及び/又はこの国際予備審査機関が認めた訂正を含む明細書、請求の範囲及び/又は図面の用紙 (PCT規則 70.16 及び実施細則第 607 号参照)</p> <p><input type="checkbox"/> 第 I 欄 4. 及び補充欄に示したように、出願時における国際出願の開示の範囲を超えた補正を含むものとこの国際予備審査機関が認定した差替え用紙</p> <p>b. <input type="checkbox"/> 電子媒体は全部で (電子媒体の種類、数を示す)。 配列表に関する補充欄に示すように、電子形式による配列表又は配列表に関連するテーブルを含む。 (実施細則第 802 号参照)</p>
<p>4. この国際予備審査報告は、次の内容を含む。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 第 I 欄 国際予備審査報告の基礎</p> <p><input type="checkbox"/> 第 II 欄 優先権</p> <p><input type="checkbox"/> 第 III 欄 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての国際予備審査報告の不作成</p> <p><input type="checkbox"/> 第 IV 欄 発明の単一性の欠如</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 第 V 欄 PCT35条(2)に規定する新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての見解、それを裏付けるための文献及び説明</p> <p><input type="checkbox"/> 第 VI 欄 ある種の引用文献</p> <p><input type="checkbox"/> 第 VII 欄 国際出願の不備</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 第 VIII 欄 国際出願に対する意見</p>

国際予備審査の請求書を受理した日 02.02.2005	国際予備審査報告を作成した日 10.01.2006	
名称及びあて先 日本国特許庁 (IPEA/J P) 郵便番号 100-8915 東京都千代田区霞が関三丁目 4 番 3 号	特許庁審査官 (権限のある職員) 田中 晴絵	4 N 9 7 3 9
	電話番号 03-3581-1101 内線 3488	

様式PCT/IPEA/409 (表紙) (2005年4月)

第 I 欄 報告の基礎

1. 言語に関し、この予備審査報告は以下のものを基礎とした。

- ☒ 出願時の言語による国際出願
☐ 出願時の言語から次の目的のための言語である _____ 語に翻訳された、この国際出願の翻訳文
☐ 国際調査 (PCT規則12.3(a)及び23.1(b))
☐ 国際公開 (PCT規則12.4(a))
☐ 国際予備審査 (PCT規則55.2(a)又は55.3(a))

2. この報告は下記の出願書類を基礎とした。(法第6条 (PCT14条)の規定に基づく命令に応答するために提出された差替え用紙は、この報告において「出願時」とし、この報告に添付していない。)

☒ 出願時の国際出願書類

☐ 明細書

第 _____ ページ、出願時に提出されたもの
 第 _____ ページ*、 _____ 付けで国際予備審査機関が受理したもの
 第 _____ ページ*、 _____ 付けで国際予備審査機関が受理したもの

☐ 請求の範囲

第 _____ 項、出願時に提出されたもの
 第 _____ 項*、PCT 19条の規定に基づき補正されたもの
 第 _____ 項*、 _____ 付けで国際予備審査機関が受理したもの
 第 _____ 項*、 _____ 付けで国際予備審査機関が受理したもの

☐ 図面

第 _____ ページ/図、出願時に提出されたもの
 第 _____ ページ/図*、 _____ 付けで国際予備審査機関が受理したもの
 第 _____ ページ/図*、 _____ 付けで国際予備審査機関が受理したもの

☒ 配列表又は関連するテーブル

配列表に関する補充欄を参照すること。

3. ☐ 補正により、下記の書類が削除された。

☐ 明細書 第 _____ ページ
☐ 請求の範囲 第 _____ 項
☐ 図面 第 _____ ページ/図
☐ 配列表 (具体的に記載すること) _____
☐ 配列表に関連するテーブル (具体的に記載すること) _____

4. ☐ この報告は、補充欄に示したように、この報告に添付されかつ以下に示した補正が出願時における開示の範囲を超えてされたものと認められるので、その補正がされなかったものとして作成した。(PCT規則 70.2(c))

☐ 明細書 第 _____ ページ
☐ 請求の範囲 第 _____ 項
☐ 図面 第 _____ ページ/図
☐ 配列表 (具体的に記載すること) _____
☐ 配列表に関連するテーブル (具体的に記載すること) _____

* 4. に該当する場合、その用紙に "superseded" と記入されることがある。

第V欄 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての法第12条(PCT35条(2))に定める見解、それを裏付ける文献及び説明

1. 見解

新規性 (N)	請求の範囲		有
	請求の範囲	1 - 1 4	無
進歩性 (I S)	請求の範囲		有
	請求の範囲	1 - 1 4	無
産業上の利用可能性 (I A)	請求の範囲	1 - 1 4	有
	請求の範囲		無

2. 文献及び説明 (PCT規則 70.7)

国際調査報告には以下の文献 1 - 5 が挙げられている。

文献 1 : 櫻井亜季他, 高分子学会予稿集, 2003, Vol. 52, No. 13, p. 3722-3723

文献 2 : KIM WJ, et. al., Chem. Eur. J., 2001, Vol. 7, No. 1, p. 176-80

文献 3 : KIM WJ, et. al., J. Am. Chem. Soc., 2002, Vol. 124, No. 43, p. 12676-7

文献 4 : TAJIMA K, et. al., Chemistry Letters, 2003, Vol. 32, No. 5, p. 470-471

文献 5 : TAJIMA K, et. al., Nucleic Acids Research Suppl., 2002, Vol. 2
, Twenty-nin, p. 265-266

請求の範囲 1 - 1 4 に記載される発明は、文献 1 により、新規性・進歩性を有さない。

文献 1 には、アルギニン残基を多く含むカチオン性くし形共重合体である L16-g-M al6 を DNA 鎖交換反応に用いることが記載されており、当該共重合体は主鎖がアルギニンに富むカチオン性ペプチドからなり、これに含まれるリシンのアミノ基に側鎖としてマルトヘキサオースを修飾したものであることも記載されている。

請求の範囲 1 - 1 4 に記載される発明は、文献 2 - 5 により、進歩性を有さない。

文献 2、3 には、カチオン性ポリ (L-リジン) 骨格を有しデキストリンの水溶性側鎖からなるカチオン性くし形コポリマーが、DNA 鎖交換反応を促進することが記載されており、一方、文献 4、5 には、リジンに富むペプチドに比べ、アルギニンに富むペプチドが DNA 鎖交換反応をより高度に促進することが記載されているから、文献 2、3 に記載のカチオン性くし形コポリマーの、DNA 鎖交換反応を促進する機能を増大することを目的とし、文献 4、5 にリジンに富むペプチドに比べて DNA 鎖交換反応性が高いことが示されるアルギニンに富むペプチドを用い、請求の範囲 1 - 1 4 に記載される発明を導くことは当業者が容易に想到する事項であり、その効果も格別顕著なものとは認められない。

第Ⅷ欄 国際出願に対する意見

請求の範囲、明細書及び図面の明瞭性又は請求の範囲の明細書による十分な裏付についての意見を次に示す。

請求の範囲 1-14 に記載される「カチオン性高分子」について、「グアニジノ基を含む主鎖と、親水性官能基からなるカチオン性高分子」という記載では、高分子の特定として不十分であり、該当する化合物を明確に把握することができない。

また、当該カチオン性高分子に含まれる化合物としては、極めて多数の化合物を想定できるが、明細書において、具体的に製造され、DNA の交換反応を促進することが裏付けられているのは、唯一、GPLL-g-Dex のみであって、当業者の技術常識を参酌しても、請求の範囲 1-14 に記載される範囲まで、拡張ないし一般化できるとは認められない。

配列表に関する補充欄

第 I 欄 2. の続き

1. この国際出願で開示されかつ請求の範囲に係る発明に必要なヌクレオチド又はアミノ酸配列に関して、以下に基づき国際予備報告を作成した。

- a. タイプ ☒ 配列表
☐ 配列表に関連するテーブル
- b. フォーマット ☐ 紙形式
☒ 電子形式
- c. 提出時期 ☒ 出願時の国際出願に含まれていたもの
☐ この国際出願と共に電子形式により提出されたもの
☐ 出願後に、調査又は審査のために、この国際機関に提出されたもの
☐ _____ 付けで、この国際予備審査機関が補正*として受理したもの

2. ☐ さらに、配列表又は配列表に関連するテーブルを提出した場合に、出願後に提出した配列若しくは追加して提出した配列が出願時に提出した配列と同一である旨、又は、出願時の開示を超える事項を含まない旨の陳述書の提出があった。

3. 補足意見：

*第 I 欄 4. に該当する場合、国際予備審査報告書の基礎となる配列表又は配列表に関連するテーブルに "superseded" と記入されることがある。